

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100286		
法人名	特定非営利活動法人NPO社会福祉振興会		
事業所名	グループホームななかまど歌志内館 2号館		
所在地	北海道歌志内市字中村34番地1		
自己評価作成日	平成27年9月16日	評価結果市町村受理日	平成27年12月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0177100286-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成27年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はスタッフ研修の機会を増やし、ご入居者様への支援方法や認知症の理解、関わり方を改めて見直しすることで、質のよいケアの提供が行えるようになり、スタッフ一人ひとりのスキルアップや仕事に対する姿勢、今年度から掲げた仕事の10か条に沿った仕事をする中で、事業所としてご入居者様へのおもてなしが行えるようにしています。
 そういった中でも、認知症ケアに重点を置き、ご入居者様一人ひとりに合わせた支援内容はもちろん家事支援など一つ一つの動作を行っていただいたり、自分で選択していただける機会を増やせるよう支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングでの理念の復唱をしています。理念を理解できるよう入社時には理念の意味・理解を深める為に研修などを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様がよりよく生活できるように、町内会など地域とのつながりを持てるよう、河川清掃やお祭り、敬老会や新年会など町内会の一員として参加させていただいている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設を知って頂く機会として、河川清掃や神社の除雪等に参加している。運営推進会議を開催し、活動報告を伝え理解してもらえるよう努めている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、生活状況やサービスの内容・健康管理状況等報告し、より良いサービスが提供できるように意見交換を行い取り入れられるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターで開催されている研修に参加したり、運営推進会議では他職の事業所と意見交換を行っている。災害や緊急時の対応方法などについても覚書など交わしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて身体拘束の勉強会を開催していただいている。日頃から不適切な対応や声掛けが無いようスタッフ間で注意できるように取り組んでいる。出入口・玄関の施錠などはしていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待予防の研修を行っており、参加する事により、予防に努めている。日頃から入居者様の身体状態の確認を行い、痣や傷など早期発見・原因把握が行えるようにし虐待を見逃さないように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や資格修得勉強会などで得た知識を理解し、そういった制度があることを理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には書面にて契約内容を説明し、理解・納得していただいた上で入居していただけるよう努めている。入居後も不安や疑問点がある際には再度説明が行えるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面会時などにご意見、要望を聞く機会を作っている。運営推進会議などで頂いたご意見・要望を外部の人に聞いていただける機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やNPO総会をにて職員全体が意見を述べられる形を整えており、また個人面談にて個々の意見・要望が伝えられる環境になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談などを定期的に設けることでそれぞれの目標や力量を把握し、一人ひとりが働きやすい環境を作ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量や勤務・仕事年数に合わせた勉強会や外部研修への参加、資格習得の内部研修などを行い、個々のスキルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修の参加以外にも、同業施設で行われるイベントに多くのスタッフが参加できるようにしており、他の施設との交流の場を通してネットワークを形成している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前からご家族様とご本人様を交えながら面談を行う中、困り事や希望・要望を確認し、改善策を提案する事で安心して暮らしていける環境づくりに努める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や申し込みを行う段階で、ご家族様が困っていることや不安なことを聞き、施設で対応できる方法などを話すことで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みなど行う段階で、どのようなサービスが必要なのか確認した上で、グループホームを理解していただき、必要な支援をアセスメントしながら話し合うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳や願いを尊重し、入居者様本人が主役となる場面を作る事や、一緒に作業を行う事で関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の一方的なご家族様への関わりではなく、ご本人様・ご家族様・職員の三者での関わりを作りご家族様と共に本人を支える関係作りを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人が自由に面会できるようにし、また理容・買い物・散歩など職員と一緒に外出し、馴染みの人や場所の関係を大切にしてい、これまでのつながりを保てるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や居場所の工夫を行い、ご入居者様同士の関係を把握し、ご入居者様同士の関係が支えられるような環境作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用（契約）が終了しても、その後のご本人様やご家族様へのフォローが行えるよう、相談にのり協力などできる体制を作っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様から要望など聞き入れ、困難な場合はご家族様に相談し、意向を聞けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にそれまでの生活歴などをご本人様やご家族様から聞き入れ、センター方式などを活用し、利用の経過など把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況をアセスメントし、できる事をしていただき、できないことがあれば介助できるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時期や身心状態の変化に応じてご本人様・ご家族様・必要な関係者と一緒にケア会議を行い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子はもちろん気づきや異変など個別記録を記入し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しの際に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様やご家族様のニーズに合わせスムーズに対応できるように、会議や毎日の申し送りなど職員間や役職者でも柔軟に支援が行えるように話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで馴染んできた地域資源や道の駅・理美容室・診療所・役所関係など、今まで通りに利用し続けられるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人様やご家族様の希望に添えるように行い、病院との連携ができるようにこちらから手紙を書くなど安心して受診できる体制を作っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の健康状態や状況変化に対し常に目配りなど行い対応し、判断ができない場合には上司や看護師などに相談・報告して指示を仰ぎ対処し場合によっては受診なども行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された際安心して治療して頂けるよう、添書や服薬リストなどの情報提供はもちろん、入院中の情報交換なども行い、退院に対しても病院関係者とスムーズに連携を図れるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルについての書類を作成し、説明・同意をいただくようにしている。またご本人様の状態の変化に応じて今後についての話をご家族様と行い、医師とも連携を取りながらチームとして支援できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全体で救命講習を受講し初期対応や応急処置方法について学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を開催し消防職員に立ち会っていただき、設備点検などもしていただき指導を受けている。また、町内会から覚書を作成し非常時等は協力していただけるようにしている。		

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係の中でも礼儀や場面、状態に応じた声掛けに努め、ご利用者様が一個人であるという事を常に念頭に置き、尊厳を傷つけない対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度希望など聞く機会を設け、自己決定がしやすい声掛けや雰囲気、環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1日どのように過ごしたいか意見を聞き人的・時間的に難しい場合には相談し実現できるよう努めている。意思が伝えられないご入居者様に関しては、生活歴やその表情など読み取るなど行い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性であればお化粧をお手伝いする、男性であれば髭剃りをお手伝いする等の支援を実施している。また定期的に床屋や美容室へ行けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の出来る事に合わせ準備や片付けと一緒に実施できるようにメニューなどの工夫も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通常食だと窒息や誤嚥などの危険がある利用者様には刻み食やペースト食の提供等その方の状態に合わせた食事を提供するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っていただき、夕食後には義歯の洗浄を行うよう支援している。また自分でできる部分は自分で行っていただけるよう声掛け、支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を記録し一人ひとりの状況・状態に応じその人に合った排泄支援を行っている。出来るだけトイレ内で排泄してもらうようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状態が続かないよう乳製品の提供や定期的な運動など行い、予防できるよう支援している。また場合によっては下剤の調整など行い、便秘予防を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	ご本人様と相談しながら、週に2回入浴が行えるよう時間帯など検討している。入浴時には、音楽や入浴剤を使用し、楽しんで入浴して頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様に確認を取りながら臥床支援や就寝していただけるように支援している。また寝具など馴染みの物や一人ひとりに合ったものが使用できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で常に声を掛けあい、服薬変更があった場合は全員に周知するよう申し送りなど行っている。また症状の変化など情報の共有が行えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方なら家事のお手伝い、男性の喫煙者の方なら喫煙支援などご利用者様の馴染みとなることが行え、気分転換に繋がるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望を聞き、日時や希望場所へ外出できるよう支援を実施している。また自宅へ帰宅なども行えるようご家族様と相談し実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できるご入居者様にはご家族様とも相談しながら、現金を自分で所持できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人等へのお電話・お手紙はご本人の希望に応じて行っている。またこちらにいただいております手紙等にも連絡など行い届いたことを伝えられるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節や時間帯・天候などいろいろな条件を考慮し、居心地良い適切な空間を作る様に努めている。照明や室温・臭いなどその都度交換・調整など行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人に合った適切な共用空間での環境作りを進める為その時々に応じ、一人ひとり嫌な思いをしないように場所を提供したり、時には職員が間に入り他者との関係を保つようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使いなれた物や馴染み深い物、仏壇などを持ってきて頂き過ごしやすい居室作りに努めている。また、生活する中で必要な物があればご家族様と相談し用意していただいている、		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレ等、場所がわかる様に目印をおいたり、見やすい位置にカレンダー、時計を設置している。また安全確保の為、場合により居室内にセンサーを置き、すぐに手助けできるよう支援している。		